

- 1 審議会名 安曇野市食育推進会議（第2回）
- 2 日 時 平成30年2月26日 午後1時30分から午後3時00分まで
- 3 会 場 本庁舎 会議室401
- 4 出席者 本郷会長、堀内副会長、中田委員、曾山委員、豊田委員、上條委員、堀内委員、
宮澤委員、丸山委員、阿部委員、松尾委員、辻野委員、後藤委員、渡辺委員
- 5 市側出席者 堀内保健医療部長、高橋健康推進課長、中澤センター長、久保田課長補佐、
竹澤管理栄養士、小松管理栄養士、斎藤管理栄養士、芝原歯科衛生士
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成30年2月27日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開 会
- (2) 保健医療部長あいさつ
- (3) 会長あいさつ
- (4) 協議事項
- ① 平成29年度食育推進事業進捗状況・平成30年度食育推進事業計画について
- ② 安曇野市食育推進計画（第3次）の策定に向けて
- (5) その他
- (6) 閉会

2 審議概要

① 平成29年度食育推進事業進捗状況・平成30年度食育推進事業計画について

(会 長) 平成29年度食育推進事業進捗状況・平成30年度食育推進事業計画について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 平成29年度食育推進事業進捗状況・平成30年度食育推進事業計画についての説明

(会 長) 平成29年度食育推進事業進捗状況・平成30年度食育推進事業計画について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。

(委 員) すごく幅広くいい活動をされているなどと思います。基本目標のところまで3つ掲げていらっしゃいましたけども、どの位達成できたか評価する基準というのはありますか。数字的なものなのか、おそらく全部継続になっているので、実現できる方向にいていたのだろうとは思いますが。

(事務局) 評価はこれから行うものになりますけど、2次計画の時に目標値を設置していて、計画書のP36、この中で評価をしていくことになります。

(委 員) フィードバックはあったのですか。

(事務局) 3次計画を作成する前にこちらの評価を行います。来年度の4月を予定しています。

(委 員) それで目標が全然達成できていないようだったら継続するものも少し方向転換しようとか、これから決めていくってことですね。

(事務局) はい。

(委 員) 小中学校の弁当の日ですね、昨年度から明科中学校、今年度から明南小学校で実施していただいて、非常にありがたいのですが、まだ2校だけなので来年度からもっと多くの学校でお願いできればと思います。

(事務局) いただいたご意見は庁内検討委員会等で図っていかねばと思います。

(会 長) 全部継続ですけど、新規ってないですか。

(事務局) 今あることを継続してやっていく予定です。続けていくことも非常に大事なことから考えています。

(会 長) 大体出来上がっちゃって、新規のものもどうかと。

(事務局) 新規は今のところ予定していません。

(会 長) 自分たちのだけじゃなくて、他の自治体のいいと思うことも提案していきたいと思います。

(事務局) よろしくお願いします。

(会 長) そういう見方も大事だと思います。

(委 員) P1の母子健康手帳の届着数471人に対して、両親学級の参加者が41人とすごく少ないですね。お腹にいる時から成人病が始まっているって言われていますよね。それなのにこの大事な時期の受講率が少ないっていうのがすごく気になります。お腹に赤ちゃんいる時ってむしろ自分の健康のことばかりに重点を置いているような気がします。これしか講習を受けられない背景って何かかなと思う。お勤めしているとか、そういう面の配慮は考えていますか。例えば日曜日はできないですね。で

も日曜日しかお休みがとれないお母さんもいるのではないかと。ほとんどの人が務めていると思います。その辺の改革というか、裏に隠れている問題点を探していかないと、受講率が上がらないような気がします。

(事務局) 両親学級ですけど、1コース3回、年6回行っています。その内の1回は土曜日実施という形、3回の内、1回を栄養とか食生活についての話の内容になっています。教室ということで、健診と違って、きちんときめ細かな指導をするために多すぎても困ることもあり、定員を20人に設定させていただいています。その内、栄養の回に参加された方が41人ということになります。栄養の回は平日開催になっていますが、今後要望等確認しながら今のところ平日でもお仕事されている方でもお休みをとって来ていただいたりしているので、このまま継続していきたいかなと考えています。両親学級は産科の病院等でもやっていますので、そちらを受けるから市の方は受けませんと方もいらっしゃると思いますので、少なくなっているのが現状です。

(会長) どこで受けようが、全体の人がどこかで受けていただければ。

(委員) 意外と赤ちゃんの健診とか離乳食の勉強は一生懸命ですけど、自分のお腹の中にいる時って、食事のことはあまり重点置いてないのではないかと思います。コンビニのごはん食べてみたり、カップヌードル食べてみたりってこともあり得るのではないかなと、日常生活の忙しさに紛れてしまって、その辺が落とし穴じゃないかなと思う。その続きがどんどん子どもにも伝わっていくっていう辺りがあるのではないかなと私は思います。

(事務局) ありがとうございます。そういう点についても母子手帳交付の時は必ず全員の方に保健師が面接していますので、その時に妊娠中の食事っていうパンフレットをお渡しして、全員の方にこういうことが大事だよっていう説明はさせていただいています。

(委員) パンフレットっていうのは、落とし穴があるかなと思って、その時はうんうんって感じるのですが、持って帰ったらごみになってしまうっていう割合が多いと思うので。実習みたいなものとか実際に手をかけてやることで、自分で実感するっていうことが大事かなって思います。

(事務局) ありがとうございます。

(会長) その辺もご検討いただいて、質の向上をしてください。

(委員) 高齢期の対象者の把握のところ「要支援・要介護状態となるおそれの高い状態にある者を把握し、栄養面も含めた健康に関する支援と情報提供を行います。」となっていますが、栄養面の情報提供はどなたがされているのかということと、これからフレイル等の予防について栄養士が活躍していく場面もあるかと思いますが、介護保険課には管理栄養士がいるのかどうか。この2点についてお伺いしたいと思います。

(事務局) 介護保険課には管理栄養士の配置はしていません。こういう教室をする時には在宅の人を必要に応じてお願いしているかと思っています。

(事務局) 詳しい教室の内容はわかりませんが、在宅の栄養士さんをお願いして調理実習を行っているということがあります。きめ細かい対応はできていないかもしれませんが、そういった面で食事の話はできているということです。

(会長) フレイルについては、今私がいるとこなんて本当に全国で20年先をいっているような80~100歳の方ばかりです。血液検査をするとたんぱく質なんかすごく落ちていて、足腰も動かない。やはりこれは若い頃から当然私もデータ出しているのですが、40歳くらいの女性で低栄養の方いますよ。自分であまり自覚していなくてもやはり食事と運動だと思います。2つを少なくともやってかないと、これからの世の中っていうのは皆年寄りになりますよね。そんな認識を自分たちで持って今からでは遅いくらい。私なんて簡単に週に3回位肉食べるとかいい加減な数字を言っていますが、栄養士の方はもっと的確にお話いただけると思うので、生活習慣病っていうのは今どこでもやっていて、私も13年もやっているけど、これからの世の中見据えたら、皆年寄りになっていく。フレイルをどういう風にするか。これが一番重要なポイントになってくると思うので、こころを原則やっておかないと、自分たちが80~90歳になった時に何もできなくなる。

(事務局) いただいたご意見は庁内検討委員会の中で、また介護保険課の方へも伝えていきたいと思っています。

(委員) 訪問栄養は管理栄養士が行うとなっていますので、ぜひ介護保険課で管理栄養士の方が活躍できるような場がこれからできていければ、長野県栄養士会としても嬉しいかと思っています。

(事務局) 申し伝えます。

② 安曇野市食育推進計画（第3次）の策定に向けて

(会長) 安曇野市食育推進計画（第3次）の策定に向けて事務局より説明をお願いします。

(事務局) 安曇野市食育推進計画（第3次）の策定に向けての説明

(会長) 安曇野市食育推進計画（第3次）の策定に向けて、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。

(会長) 国の第3次食育推進基本計画は何年ですか。

(事務局) 平成28年から32年の5か年計画になっています。

(会長) 重点課題の1~5は、今までのとは何が違うのかなと思います。

(事務局) 4の「食の循環や環境を意識した食育の推進」と5の「食文化の継承に向けた食育の推進」というのが新しい項目になっています。

(会長) そちら辺が新しくなってこれからというところ。「健康寿命の延伸につながる食育の推進」なんて本当かなって気がします。フレイル、ロコモについて、もっと先進的にやっていただければ面白いと

思うのですが、これだとどこかでやっていることそのままやっているみたいで、今までやってきたことがそのままって感じがしないわけじゃない。若い世代って私も10年以上前からやってきたのですが、もっと新しくなかならないか。私くらいの年になってくると例えば奥さんがいて、もし奥さんに先立たれた場合は、奥さん一人になった場合はあまり変わらないけど、旦那さんがもし家で何もやっていないような人ならば、突然ガクッと健康に弊害が出てきて健康寿命が落っていく。孤食というのもあったけど、もっと掘り下げてそういう方が実際、健康診断受けているのかとか、医療機関訪ねているかどうか、ほったらかしになってないかどうか、そこら辺を管理栄養士さんに尋ねてもらおうとか、もっとやればできると思うし、コミュニティが狭くなっているのではないかと思う。また新しい展開が生まれるのではないかと思う。そういったことをもっと文章に出して、他のとこでやっていることではないことを安曇野市に期待している。聞き飽きたことしかない。

(事務局) ありがとうございます。

(委員) お弁当の日を2校以外で増やしていこうって提案があった時に議題に上げますと言いましたけど、議題に上がった場合はどういう経緯を辿るのですか。それで実施される方向にいくのか、それとももっと具体的な提案をこの会でしていかないと実施が進まないのか、それはどうすれば一番実施に繋がっていくか。

(委員) 子どもを育てている一親として、以前はお弁当という言葉はあまり出てこなかったと思います。それが最近国の方でも言われているということは、これから育っていく子どもたちが自分たちの必要な食べ物を選んでいく、一番身近なところで中学生がまず自分たちの食べるものを作っていこうというところから始まってきたのではないかなと思います。せっかく安曇野市の一部の学校で始まってきているので、それを共有し合っ、食関係だけじゃなくて学校教育課の方と連携が必要になるかと思うのですが、育っていく子どもたちのことを思って伝えていって、提案を広めていってほしいと思います。

(事務局) 庁内検討委員会でご提案します。ただ其々学校の事情もあるので、弁当の日という形ではないですが、其々の学校で取り組んでいる内容がこの別紙1、其々のできることをやってもらっている状況です。

(委員) 形上は、会議で提案しました。後は好きにやっってくださいねっていうスタンスっていうことですか。

(事務局) そうですね。食育推進会議で決まったからやっってくださいってものでもないですので、そういう強制力はないので。

(委員) 例えば弁当の日を推奨している先生を呼んできて講演会をして、各校長先生に来てもらうとか。他の方法でいった方が実現しやすい方法があるのかなと思っているのですが、いい方法はないですかね。

(事務局) 明科中学校で弁当の日を始める前の年に校長会とかで私共もお話させていただき、講演会もさせていただきました。

(委員) それで明科中学校とかでやり始めた。その講演会こそ継続していてもいいのではないかなと。

(事務局) 講演会に推奨している先生をお呼びするのも結構お忙しい先生で制約がある中で一回やらせていただいたという感じです。

(委員) あれはいい講演会だったね。あの先生そんなに来られんわ。忙しいもん。

(事務局) 明科中学校でも呼びました。

(委員) 映像だけでも借りてきて映写会だけでも終わる頃に子どもの顔が断然変わるっていうあれは素晴らしいなと思って。

(委員) 資料を作って配布するのすごく大事だと思うのですが、ああいう講演会をもう少しやれたらもっと効果が出る。

(委員) その代わり両親が大変ですよ。これからは。

(委員) 子どもたちも弁当で変わりますし、両親たちも変わる良いきっかけになる。

(委員) 変わらなきゃいけないのだけど、変わるか。忙しいからパンにジャムぬって学校に行くっていう子どもがいるっていう現実もあるのだから、その辺を少しでもよく知らなきゃいけないのはわかるし、弁当の日もいいことだと思うけど、見ていると親は心配で手を切るって。僕たちの頃は手を切ったってしょうがないっていう感じだから屈強な奴が多くなっていく。

(委員) 心配で親子が関わるっていうのも、それはそれで家庭での良い食育の場じゃないですか。

(委員) いいことですよ。ただあの先生がそんなに来てくれるかね。

(委員) あの先生が難しければ、実施されている明科中学校の校長先生に登壇していただいて話してもらおうとか。

(委員) 食育の講習会やっても学校の先生で熱心なところは今年やっても、また来年やってくれって熱心なところもあるし、いい加減にやっている先生もいるし、なかなか面白いです。さっき先生がおっしゃった一人になって何もできないっていうのは、いくらでも調理師会が受けますので、いくらでも若い者がたくさんいますので、年寄りと話した方が、若い者も礼儀が出てくるからぜひそういう風に加えてもらえばありがたいなと。

(委員) 男の料理教室って公民館活動に講師で行っている。交代で調理師会の中で講習に行くのですが、結構男の方もほんとに手を出してくれてステーキ焼いてくれというような、材料全部用意してくれ

て、柏原だったかな、すごいですね、来る人は何か身につけようと前向きですよ。だから先生が言ったみたいに一人暮らしで今までスーパーに行ったこともなかったような人がスーパーに行くことも、そういう機会を色んなところで設けてやれば、結構前向きな人もいますし、料理に対する色んな認識も変わってくると思います。我々も味覚の授業で毎年5年生、今年是三郷小学校5クラスということで大変数が多かったけどやらせてもらった。もう1校、堀金は調理実習はやらなくて授業のみということで味覚というものはどういう物かという授業をやらせてもらった。今年豊科の小学校で計画を立ててやる予定でいます。またお世話になります。

(委員) ちなみにちょっと聞きますが、皆さん塩を使っていますよね。塩を火に通して使っている方いますか。生の塩と焼いた塩でおにぎり作ってみてください。どれだけ違うかわかります。子どもは極端に言います。必ず塩焼いてくれてって。京都で亡くなった有名な先生がお塩は焼いてくださいって。なんで変わるか分からないけれど、とがった味がしなくなってまろやかな味になる。それで焼き芋やったり味をつけたり、煮物にしたりすると全然違ってきますから。フライパンでやらないでくださいね。鍋でやってください。フライパンでやると油つきますから。どんな塩でも大丈夫です。一見サラサラになればいいです。梅雨時になるとそんなにしけられないし、ぜひやってみてください。

(委員) 行政ってすごく難しいと思うのですが、学校と安曇野市のギャップっていうのは、ここで決めても学校の方で受け入れてもらえないっていう溝があるのではないかなって、私今まで食改をやってきてそれをすごく感じることもあります。食改からもお願いしようかなと思うけれど、壁があるとか。そこがなくなれば、私たちが言った意見が上の方に通じるのではないかなって感じる。そこがうまくいかなければ、私たちがいい考えを出してもここでストップっていう形になるのではないかな。それが市の方からこうしなさいっていうものが出て、学校がそれを受けて。学校の活動を見て、これは紙面上でよくわからないのですが、小学校10校あって、其々でやっていることが、異なるような差を感じる。これがなんで安曇野市なのに統一できないのって思います。そこら辺がうまくいけばいいなと思います。

(事務局) なかなか内容を統一するのは難しい。其々今までやってきたこともありますので、強制的に食育に関してこうしなければいけないっていうものもないので、其々の取り組みの中で授業だったり、色んな生活の時間を使ったり、色んな時間を使って食育っていうものに対して取り組んでいただいていますので、養教の先生がいますので聞いていただければと思いますが、そこでできるところから始まっていかればいいのかと思います。

(委員) 学校の中で栄養士さんたちや関係の人たちが交流会を持ってお互いの学校のこうゆうところがよかったからうちでも取り入れようとかそういう交流はありますか。

(委員) 安曇野市は給食センターなので、給食センターの栄養教諭はいるので、そちらの方の会はあると思いますけど、実際給食指導というのは、担任、副担任が行っているものなので、給食とか食の係の会議というのはあっても年に1回とかになっています。

(委員) 計画が学校毎にいいのがいっぱいあるじゃないですか。それを10校の担当者が共有できているかどうかという辺りが不審に思います。

(事務局) 例えばこれで第2次の計画期間が終わって、第3次が始まる。こういう区切りの時っていうのが、ある程度、途中だとなかなか今までやってきたのとなっちゃうのですが、新しいことに取り組んでくって意味でも第3次が始まることを一つのきっかけとして、じゃあ来年度すぐにはなかなかですが、学校のことはよくわからないのですが、学校は当然校長先生がいらっしゃる。教頭先生がいらっしゃる。色んなカリキュラムを自分たちの学校ではどうするってことを考えながらやっているとは思いますが。その中で横の連携っていうのはそんなにはないかなって言うところはあります。ただ市のPTA連合会とか、保護者の皆さんは横の連携を持っていますので、色んなルートを通じて、第3次始まるよっていう辺りをもっとPRしながら、できるだけ方向性としては皆さんからの意見を庁内の方へも呼び掛けて、担当は教育委員会になりますけども進めていきたいという風には思っています。

(委員) 親は子どもから教育されますよね。子どもがこれ良かったよと言うと親はそれになびきますよね。だから食生活も子どもから教育していくのが一番。学校から教育していくのが一番だと私は思っています。

(委員) この計画は素晴らしい内容だと思うのですが、学校の先生方に行き渡っているのですか。学校の先生方も忙しくてそんな暇ないと思うのですが、読み込んでいくようなレクチャーがあるとか、浸透できると現場がより変わってくるのではないかと。

(事務局) 先生方一人ひとりになると予算的な問題でなかなか難しいですけど、概要版を作っていますので、そういった物を配布するなり、検討したいと思います。

(委員) 配布のさらに一步を踏み込んだ何かができると。勉強会をして参加してもらおうように先生方にも市の食育のあり方、素晴らしい計画があるので、共有していくような場を市主導で開催することはできないですか。

(事務局) 来年度に向けて検討させてください。

(委員) せっかくなので第3次ができる時に国から示された大きな5項目をまんべんなく回すのではなくて、安曇野市に合った取り組みの仕方を意識していただければと思うのですが、例えば3番の健康寿命の

延伸につながるはメタボリックから書いてあるのを全部じゃなくて、例えば低栄養の予防に重点を置いて、一人年寄りとかそういう人たちを中心に食育していくとか、5番のところでは、学校給食を通じて食文化推進とか、読み替えて進めていくというのも一つのやり方ではないかと思います。安曇野市に合った取り組みの仕方を重点にしていればと思います。

(事務局) ありがとうございます。本当に健康推進課が事務局にはなっていますが、健康推進課だけでこの幅広い食育の課題を検討していくことはできませんので、色んな課を踏まえて、安曇野市の計画を作っていきたいなと思います。色んなところの取り組みを参考にしながらやっていきたいなと思います。

(会長) 安曇野市、HbA1cで血糖が高い方が60%、正常が40%だった。松本市は、50%50%。筑北村は80%20%だったのです。安曇野市、最近では50%50%になった。要するに10%下がってきているということで、時間はかかるのですが、市の取り組みがようやく数字となって出てきていると、おそらく医療費もそれに伴って、動脈硬化性の心臓とか頭の疾患の方の減少してきているという風に思う。こういういいこともあったよと出していただくと、何もやってないわけではないのでアピールもしていただければ、また皆さんに納得していただける。色んな方からご質問ご意見出ていますけど、無理のないやり方でやっていかないと、私も学校へお邪魔して、10数年前に、松本市の信大の上にある中学校で生活習慣病の講義をしてくれていうので、先生たちにやったことがあります。ところが皆が聞いているわけじゃないですよ。寝ている人いっぱいいますよ。疲れ果てて。校長先生とか養護の先生は聞いていただいているけど。これはやってみてわかったのですが、我々が思っている以上に別の方向で色んな問題点が、働き方云々ということも含めておそらくかなり遅くまで残っておられるのではないのでしょうか。だから我々の気持ちは確かにそうなのだけど、なかなかそれをすぐ先生に受け入れてもらえないと思うので、ゆっくり地道にやっていくことがいいと思います。

(委員) 農協の関係でも小中学校の教育ファームというところで学校教育課を通じて応援させていただいたり、学校給食の関係も学校教育課が窓口でやりとりをして農協の関係で品物を納めさせていただいたりします。そちらに後藤先生いらっしゃいますけど、ハイジの里で安曇野キッチンということで任意ですけど、料理講習会開いています。この時は学校教育課を通じて小中学校にチラシを配らせていただいて参加者が多い時とかあまりない時とか結構ご苦労されているようですが、安曇野キッチンは農政課との関りだとか、私が関わっている中でも色んなセクションと関わらせていただいていますので、先ほどご説明いただいたように色んな部署があって食育ってやっていかないとけないと思いますので、庁内検討委員会そういうところで色々まとめていくのだと思います。一つの部署だけで色々やろうと思えば大変なことになってしまうと思いますので、色んな所で関わってやってもらえば計画の段階でもっといいものができるのかなと感じました。

※会議概要は、原則として公開します。